

R6年度ネットワーク会議の取組み状況

包括	テーマ	話し合いにより分かったこと、課題
上野ヶ丘	介護予防の取り組みについて	・地域活動に参加していない方にどのように介護予防の情報を届けるかが課題
碩田	災害対策について	・若い世代との連携が必要 ・多様な主体との連携の仕組みづくりが必要
王子	身寄りのない単身高齢者への支援	・誰でも立ち寄れる居場所づくりが必要
大分西	災害対策について	・災害時に繋げるため、普段からの繋がり、既存サービスを活かした取組みの強化が必要 ・地域の役員と事業所がどのように機能しているか互いに理解しておくことが必要 ・地域の見守り体制の強化が必要
南大分	高齢者の通いの場	・移動手段が不足している ・後継者が不足している
城南・賀来	キーパーソン不在の支援	・キーパーソン不在の方の支援について、地域や関係事業所が連携できる仕組みづくりが必要
城東	課題の共有	・高齢者の見守り体制の強化が必要
滝尾	防災に対する情報の共有と連携	・日頃からの顔の見える関係づくりが大切。一方で地域の担い手の高齢化や人材不足、近所付き合いの難しさなどの課題がある ・分野を超えた多様な主体との連携体制が必要
明野	集いの場と社会資源	・ひとり暮らしの方の連絡体制の整備が必要 ・子どもから高齢者まで誰もが参加できる場づくりが必要 ・集まるための移動支援が必要 ・ちょっとした困りごとへの支援が必要
原川	圏域内独自事業の現状と今後の展開に関する共有	・日岡校区に続き、桃園校区でも介護予防のための社会資源の創出が必要
鶴崎	買い物支援について	・公共交通機関の便が悪く、移動手段に困っている方がいる ・三佐地区は近くにスーパーがない
大東	終活について	・終活の手伝い等、地域で住民同士が助け合える体制の構築が必要 ・認知症や急病時の備えが必要
東陽	運転免許返納後の社会資源の活用について	・買い物やコミュニティの場について、地域間格差がある ・地域のニーズに合わせたサービスづくりが必要 ・貧困で孤立している高齢者が相談、参加できるコミュニティが必要
大在	高齢者の困りごと支援について	・通いの場、近所付き合い、話し相手を必要としている ・既存のサービスについて情報が行き届いていない ・民間サービスは経済困窮のある方は利用しづらい
坂ノ市	多世代でふれあう居場所について	・坂ノ市圏域内の3校区が連携できる仕組みが必要 ・子どもから高齢者まで気軽に集まれる場所、併せて移動手段の検討が必要
植田	地域の8050問題を考える	・相談先が分からず、本人、家族だけで抱え込んでいる ・関係機関と連携がしやすい仕組みづくりが必要
植田西	エンディングノートの使い方	・孤立防止のため、通いの場を増やす必要がある。 ・住民主体の生活支援の立ち上げが必要。
植田南	高齢者支援のための情報共有について	・個人情報の関係で関係者との情報共有が難しい ・関係者との繋がりが不足している ・交通手段が不足している ・ニーズに合う集いの場がない
植田東	小地域ネットワークとの連携	・バスの便が減り、買い物や受診時の移動に不便を感じている ・多くの高齢者が介護予防に取り組みやすい仕組みの検討が必要 ・困りごと支援の担い手確保について、地域の多様な団体との連携について検討が必要
竹中・判田	地域と事業所との協働活動	・認知症に対する正しい理解の啓発が必要 ・地域活動を行う担い手が不足している ・移動手段がない
戸次・吉野	(戸次) 高齢者の災害に備える	・平時から地域と福祉が連携し、災害時の対応について検討しておく必要がある ・地域の見守り体制の強化が必要 ・災害時の情報収集や情報発信の方法について具体的に検討する必要がある
野津原	地域の助け合い活動について	・活動の周知を行い、ニーズの把握を行っていく必要がある ・協力者を募る必要がある ・買い物、受診等の移動手段に課題がある
佐賀関・神崎	通いの場のつながりを深める	・通いの場の担い手不足、参加者の減少 ・活動内容への支援が必要 ・通いの場へ行くための移動手段がない

<用語の解説>

- 通いの場…地域住民同士が気軽に集い、「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げる場所。ここでは高齢者が対象の介護予防に繋がる場を指す
- 小地域ネットワーク…自治会や民生委員担当地区等を活動範囲の単位として行われている住民が参加する福祉活動
- エンディングノート…終活の一環として、自分の医療・介護の希望、財産、葬儀、家族へのメッセージなどを記録するノート
- 8050問題：80代の親が、50代の自立が難しい子どもを支えるために、経済的にも精神的にも強い負担を請け負うという社会問題のこと